

2 年 次 生 研 修 旅 行 事 前 研 修

9月19日（木）に研修旅行の事前研修として講演会が行われました。この講演会を通して、沖縄や戦争の悲惨さについて学ぶことができました。

1. 講 師： 杉原 茂男 先生
中部学院大学 入試広報部長兼特任教授
2. 内 容： 沖縄の戦い ～昭和 20 年沖縄で何が起こったのか～
若者が命を賭して護りたかったものとは
沖縄は、太平洋戦争の末期、日本国内で唯一、住民を巻き込んだ熾烈を極めた地上戦が行われたところです。なぜ、沖縄を訪れるのか。沖縄を訪れることの意味は何か。皆さんとともに考えたいと思います。（出張講義ガイドより）

<生徒の感想>

・沖縄をただ楽しむだけではなく、戦時中の沖縄ではどんなことが起こっていたのか、なぜ戦争を続けたのかを考えながらすごそうと思いました。「島唄」という歌は昔から知っていましたが戦時中の沖縄を思いがいた歌ということをはじめて知りました。自分たちと同じ年や中学生の人たちまでも戦争にかり出すのはとてもひどく、一人一人の命を尊重してないと思いました。

・今日の講話を受け、感じたことは、自分たちが今こうして生活できている事は決して「あたりまえ」ではないということでした。今まで東京大空襲などの平和学習をしてきましたが、「悲しいな」とか「戦争絶対いけない」というのはありました。しかし、映像から写真を見ながら話を聞いた後、自分たちの生活を振り返ると、自分たちがどんなに楽に生きているか、情けなく感じました。「特攻隊」の映像をみたときすごく胸が痛み、あの爆発の中で人が死んでいる、あんな一瞬で人が死んでいくと考えると、自分には到底そんな覚悟はできない、命令されたら逃げ出していたと思います。改めて自分を見直すことができました。

